

東京農業大学・東京情報大学の最新情報をお届けする

# 新・実学ジャーナル

September  
2018  
No.152

9



▶ **研究&教育 最前線**

食事の効果をはかる試み

東京農業大学 教授 日田 安寿美

▶ **ZOOM UP**

南の島で学び究める

東京農大宮古亜熱帯農場

▶ **昭和大と包括連携協定** 東京農大 学校法人同士は初

▶ **農大稲花小にレモンの木** サッポロHDが寄贈

▶ **農大試飲フェア** 「楽しい!」と大盛況に

私の宝もの **My Treasure**

世界で唯一 きのご観音 江口 文陽

学校法人東京農業大学



## 研究&教育 最前線

The front line of  
research  
and education



東京農業大学

教授 日田安寿美

ひだ・あずみ/1970年生まれ。熊本県生まれ、東京都育ち。東京大学大学院医学系研究科分子細胞生物学専攻博士課程修了。東京農業大学応用生物科学部栄養科学科(保健栄養学研究室)教授。博士(医学)。

- 専門分野: 公衆栄養学、スポーツ栄養学
- 主な研究テーマ: 健康増進のための栄養疫学、スポーツ栄養学

# 食事の効果をはかる試み

オリンピック・パラリンピックに向けて関心が高まりつつあるスポーツ栄養学。当研究室でも食事によるアスリートのパフォーマンス向上について検討している。中でもたんばく質や炭水化物の摂り方が注目を浴びているが、スポーツ栄養学の分野だけでなく高齢期の食事についてもたんばく質の摂取が重要となる。栄養学に関する文献の調査から、高齢期の食事と運動について、また最近話題になった肥満解消のための食事法についても検討し、これらの研究の現状についても紹介する。

## 運動選手と高齢期におけるたんばく質 摂取の科学

2年後に東京オリンピック・パラリンピックを控え、スポーツ栄養学が注目を浴びる機会が増えているように思う。スポーツ栄養学でのたんばく質の摂り方については、その量、質、タイミングが主に研究されている。これまでは体内への窒素の取り込みと排出量を測る窒素出納法が主な研究手法であった。しかし近年、誤差が示されたこともあり、たんばく質が多数のアミノ酸の集合体であることから、アミノ酸が燃焼して排出される二酸化炭素を計測するIAAO(指標アミノ酸化)法がとってかわろうとしている。機器類が高額であり、簡単に測れる手法ではないが、体への負担が少なく精度が高いことから徐々に

応用が進むことが期待されている。簡単に述べると、安定同位体を摂取し、呼吸と尿を定期的に採取・分析して体外への排出量を調べる方法で、例えば各個人のたんばく質の必要量を調べることができる。食事の評価にあたってはまず「日本人の食事摂取基準(最新版)」と照らし合わせるが、アスリートの場合、競技特性に応じて、あるいはパラリンピックの場合は障害の程度により異なることから、今後さらに測定・検討を重ねていくことが必要になる。アスリートへの食事のあり方についてはわかっていないことも多く、私たちも身近な対象者に被検者をお願いしてデータを積み重ね、スポーツパフォーマンスの向上と栄養学の進展に貢献したいと考えている。

ところで、日本は世界でも類を見ないほど高齢化が進んでいる。中高齢期の健康課題としてメタボ対

策も重要であるが、高齢期になると食べられること、筋力を維持することが重要になる。筋力を維持するためには食事のバランスが大事であるが、中でもたんばく質の摂取が鍵となる。以前はたんばく質を多くとることは腎機能の低下を促進させると考えられていたが、健康人においてはそういったエビデンス(科学的根拠)は報告されておらず、腎疾患の時でもある程度たんばく質を確保する必要性が示されている。高齢期の筋力の減少はサルコペニアと呼ばれ、これが進むと虚弱な状態、いわゆるフレイルに陥る。すなわち要介護度が進むわけだが、そうなる前に予防または改善することが求められる。

では、サルコペニアやフレイルは改善の余地があるのだろうか。そこで、文献をくまなく調査分析するシステマティックレビューを行い、食事や運動の効果について検討した(Anton & De 2017a)。サルコペニアやフレイルと診断または判定された人を対象とし、キーワードとして食事、栄養、アミノ酸、ペプチド、たんばく質のいずれかと、運動、トレーニング、歩行速度、握力、筋肉量のいずれかで検索し、介入臨床試験、60歳以上のヒト対象でフィルターをかけた。その結果、19件の論文がみつかり、そのうち「食事やサプリメントの効果のみ」を検討したものは、①栄養カウンセリングによりたんばく質を多く摂取するよう指導、②たんばく質15gを1日2回、計30g摂取、③リコッタチーズを1日3回、たんばく質にして計16g摂取などであった。しかし、結果として歩行速度や筋量にはコントロール群との差が見られず、効果はみられなかった。一方、「運動を定期的に負荷したものは歩行速度や脚筋力、握力の維持・向上に概ね効果がみられ、さらに「食事やサプリメントと運動を併用」すると相乗的な効果が見られた。この

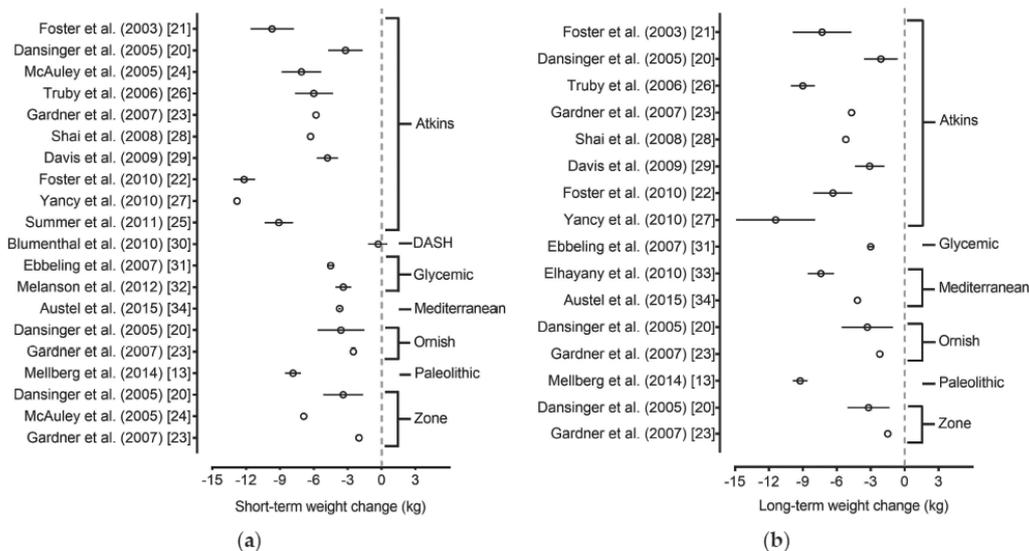


図1 各食事トライアルによる体重減少幅を平均値と95%信頼区間で示す。(a) 3~6か月以内、(b) 12か月以上実施した結果。

時の運動は筋力トレーニングが含まれていた。その一方で、BMI 30以上の肥満者に500~750キロカロリ/日のエネルギー制限食を約1年間摂取してもらったところ、体脂肪量は低下したが、筋肉量も減少してしまつた。高齢期のエネルギー制限は筋力の低下を亢進させることがあり、無理な範囲でレジスタンス運動を組み合わせ、経過を観察しながら進める必要があると示されている。

今回の比較では食事だけの効果がみられなかったが、たんぱく質の摂取量が効果の出現のために十分量だったかどうかはわからない。また、集めた介入研究では対象者が元々どのような食事をしてきたのかは示されていない。筋肉の合成に関する研究はアスリートを対象としたものが多い。アスリートにおいては、食事でたんぱく質を十分に補っている場合は、プロテインサプリメントを投与しても効果が現れない。アスリートのたんぱく質摂取のタイミングは、3食必ずとること、筋運動の直後や寝る前などの説があり、高齢期についても検討する必要があるかもしれない。筋肉量の維持・合成に必要なたんぱく質の量は筋肉1キログラムあたり、若年者では毎食0.24グラム、高齢者では毎食0.4グラムであることがIAAO法により示されており、高齢期では筋合成の効率が若年期とは異なることが考えられ、たんぱく質を多く摂取することが推奨されるひとつの根拠になると考えられる。

### 体重を減らすための食事法の比較

ところで、減量に関して様々な食事法が提案されているが、その効果はいかかなものなのだろうか。そこで2016年USニュース&ワールドリポートに掲載された「減量のポピュラーダイエット」について肥満

者に対する介入試験のシステマティックレビューを行った(Anton 5の註2017b)。論文の採用基準は1群15人以上、3か月以上実施、各食事法の基準に合っていることとし、食事を何かに置き換えているものや運動を併用しているもの、エネルギー制限をしているものは除外した。紹介されている38種の食事法のうち介入試験結果を示しているものは20種だったが、採用基準に合うものは7種16文献が該当した(図1)。

抽出された文献は、アトキンスダイエット、DASH食、グリセミックインデックス食、地中海食、オーニッシュ食、パレオリシック食、ゾーン食の7種の食事法であった。中でも低糖質ダイエットのアトキンスダイエットは体重減少の効果が高い傾向にあったが、他の食事法については論文数が少なく、今後さらに検討の必要がある。また、これらの文献は元の食事量が示されており、食事の変化量がわからないため、食事の内容による効果なのか、それとも変えることに付随して食事量が減ったことによる効果なのかはわからなかった。無理なく減らせる食事パターンということなら良いのかもしれないが、アトキンス食では脱落者も多い。また、副作用も報告されていることから実施にあたっては専門家によるモニターが必要となる。

一般に、ダイエットに関する興味関心は高いが、栄養素の効果が現れるまでには時間のかかるものが多い。それぞれの情報が正しいのか、間違っているのかわかりにくい。科学的根拠に基づいて食事を選択できる環境を整備するためにも、ヒトを対象とした研究による検証がかかせない。ひとつずつ丁寧に向き合っていきたい。

## 南の島で学び究める

# 東京農大 宮古亜熱帯農場



宮古亜熱帯農場を管理する菊野日出彦・国際食料情報学部准教授

東京から南西に1800\*<sub>□</sub>、沖縄本島と台湾とのほぼ中間にある宮古島に、東京農業大学宮古亜熱帯農場がある。1986年、熱帯農学に関する実習教育と試験研究を目的に開設された。30年超の歴史があるが、どのような活動が行われているかは、あまり知られていない。“農大最南端”を巡ってみた。  
(鈴木敬吾・東京農大客員教授)

### 幅広い実習の場

農場は実験室などを備えた管理棟、宿泊棟などの管理基地と、そこから北2<sub>□</sub>にある9.5<sub>□</sub>の圃場ほしやうから成る。圃場では、露地でサトウキビやヤムイモを、ハウスでマンゴーなどの熱帯果樹を栽培している。

この農場を最も多く利用するのは、国際食料情報学部国際農業開発学科の学生だ。毎年、3年生約160人が、4回に分かれて必修科目の農業開発実習で1週間の実習をする。1日半の農場での実習では、マンゴー、サトウキビなどの熱帯作物の肥培管理や、小型トラクターの機械実習をする。さらに、4人程度のグループに分かれ、周辺農家でも3日半の実習をする。毎年、学生を受け入れている農事組合法人、福来多まつばらマンゴー園代表理事の松原輝美さんは「学生さんは力仕事もいとわず、熱心に作業に取り組んでくれる。ありがたいです」と語る。事務所の壁には、学生からの感謝の手紙や写真がたくさん張り出されていた。

自主的に来島する学部生、大学院生も多く、毎年延80人程度が短期・中期に滞在し自らの研究を行っている。また、青年海外協力隊の農業隊員を志望するものの、農業技術に不安のある農大卒業生やこれから赴任する青年海外協力隊員に3〜6カ月の住み込み研修も行っている。1989年から始まったこれらの研修生は122人に上る。

東京農大には高校卒業後、各地の農場に1年間住み込みで農業技術を修得する農場技術練習生制度がある。英語や生物の授業もあり、成績優秀者

は東京農大の優先入試制度の対象となる。宮古農場でも4月から3人の若者が練習生として学んでいる。茨城県出身の高野碧斗さん、栃木県出身の稲葉魁人さんと沖縄県出身の河野幸也さん。3人はいずれも国際農業開発学科への進学を希望しており、「ここで働き学んだ経験が、大学での学びに生かされ、身に付くと聞いた。残りの期間、頑張りたい」と意欲を語っていた。

### 成果を上げる産学連携

東京農大は2013年、東急電鉄、宮古観光開発、宮古島市と、農業と農業関連産業の推進に関する協定を締結し、その一環として西アフリカ、熱帯アジア、オセアニアで栽培されている熱帯ヤムイモの生産・加工・販売に取り組んでいる。

宮古島の主要作物はサトウキビだが、毎年台風被害が発生しており、島の気候、環境に適した作物の選定が課題になっている。着目したのがヤムイモだ。ヤムイモは蔓性の植物なので、サツマイモのように地面をはわせて栽培することができ。つまり、台風に強い作物である。また、痩せ地でも生育できる空気中の窒素を利用するヤムイモも発見されており、将来の食料危機を救う。21世紀の食料資源」と注目されている。

ヤムイモはヤマノイモ属植物で食用となる種で、約600種ある。宮古島でも「ダイジョ」と呼ばれるヤムイモが栽培されてきたが、野球のグローブのような形のため、傷つけずに掘り出すのは難しく、調理も皮むきに手間がかかるのが難点だった。東京農大が宮古島に最適と選んだ品種が



ダイジヨ（左）と選抜したA-19

A-19。こぶし大より一回り大きな球状だ。

東急電鉄系の宮古観光開発は13年から自社農場の5000平方メートルでA-19の栽培を始めた。1000平方メートル当たりの収穫量は当初、12トだったが、18年

には18トに増えたという。同社副総支配人の前泊辰美さんは「ぜんぶ菊野先生のおかげです」と笑う。宮古亜熱帯農場副農場長の菊野日出彦・国際食料情報学部准教授が株間について調整し、肥料の種類を変えた成果だという。菊野准教授は「研究室レベルでのアイデアを、すぐ大規模な現場で実証してもらえ。まさに実学です。」と語る。

前泊副総支配人によると、A-19は球状のため、収穫や調理が容易で、系列のホテルでの評判も上々。フライドポテトや自然薯のようにおろしてもいいという。さらに、糸満市の酒造会社に依頼して、「yam芋焼酎 ずみ」を製造販売している。「ずみ」は宮古の言葉で「最高」を意味する。泡盛と同じ黒麹菌を使っており、フルーティーな香りが特徴で、焼酎と泡盛の中間のような味わいだ。

### ヤマイモでGAPも

東京農大はさらにこのyamイモ栽培に関して、17年に農業生産管理の国際認証規格、グローバルGAP認証を取得している。産学連携協定を結ぶ

大手総合ファイナンス会社、日立キャピタルの系列会社と共同で進めたプロジェクトで、農業私立大およびノンバンクグループとして初の取得だった。グローバルGAPは農産物の安全標準化を図るための規格で、20年の東京オリンピック・パラリンピックでは、利用する食材にグローバルGAP認証を求めると決めており、国内やアジア各地で取り組みが急激に進んでいる。

### マンゴー丸ごと日本一 沖縄県のプロジェクトに採択

マンゴーは宮古島の特産品だが、収穫期が7月に集中するため、輸送が限界を超え出荷できない滞荷がしばしば発生する。さらに、台風が来れば、出荷が完全にストップしてしまう。

このため、東京農大はマンゴーにかかわる地元企業2社と協働し、マンゴー産業振興を図る「宮古島マンゴー丸ごと日本一プロジェクト」を企画した。プロジェクトは沖縄県の17年度「中小企業課題解決プロジェクト推進事業」に採択された。マンゴーの収穫早期化技術や貯蔵技術の研究成果を実証するとともに、新商品開発や、皮や種など未利用部位の活用にも取り組んだ。さらにマンゴー生産についても、グローバルGAP認証取得を目指している。

実習学生を受け入れている福来多まつばらマンゴー園は、開花時期を早める技術の実証試験を行っている。代表理事の松原輝美さんは「出荷の始まりを6月下旬まで早められた。市場でも高く評価されています」と喜んでいる。

### 「ローカルはグローバル」 少ない陣容で獅子奮迅

宮古亜熱帯農場がこれだけ幅広い活動をしているのに、運営する教職員が専従では菊野准教授と職員2人の計3人と聞き、驚いた。まさに獅子奮迅の活躍だ。菊野さんは「これまでの成果は職員と練習生の力なしにはとてもあり得ません。」と言う。自らの研究も抱え国内外への出張もあり、日程は超多忙だが、表情は絶えず明るい。「農場は当初から地元と密着した研究を続けています。良い研究をすることが直接、地域の振興につながり、喜ばれる。やりがいを感じます」

東京農大を卒業後、鹿児島大で博士号を取得した菊野さんは、03年から西アフリカ・ナイジェリアにある国際熱帯農業研究所（IITA）でyamイモの研究に携わり、12年に宮古亜熱帯農場に来た。「熱帯・亜熱帯での栽培植物は共通しており、病気や害虫も共通しています。つまり、農家の課題は世界共通で、宮古島での問題解決方法はアフリカでも通用する。ローカルなことがグローバルなのです。食料危機や貧困問題など、世界的課題についての高い問題意識をもった人たちが、この農場で学びを深めてくれる。大きな喜びです」



農作業に取り組む農業技術練習生ら

# 昭和大と包括連携協定

東京農大 学校法人同士は初

学校法人東京農業大学は学校法人昭和大と包括連携協定を締結した。東京農大と他大との連携協定締結の例はあるが、学校法人同士の締結は初めて。

昭和大は1928年創立の昭和医学専門学校を前身とし、今年創立90周年を迎えた。医学部、薬学部、歯学部と、看護師、理学療法士らを養成する保健医療学部の4学部がある医療系総合大学で、東京、神奈川に8つの附属病院を持つ。50年以上前から富士吉田キャンパスで全寮制教育を実施しているのが特色で、4学部の学生が寝食を共にしながら医療人としての基礎を学び、チーム医療の重要性を身に付けていく。

東京農大で8月2日に行われた協定締結式で、東京農大の大澤貫寿理事長は「昭和大の『至誠一貫』という建学の精神やチーム医療を重視した教育方針は、実学主義の我々の精神と一致している。さまざまな教育研究領域で互いに共感しながら人材養成に励んでいきたい」とあいさつ。昭和大の小口勝司理事長も「協定締結を非常にうれしく思っている。創立者の上條秀介は東大病院に勤務していた時、関東大震災に遭い、多くの人を救えなかったという反省から、優れた臨床医を養成するため本学を設立した。医学と農学は一見異なる分野の学問と思われるかもしれないが、突き詰めていくと、実は同じことを研究していることが多い。この協定が学生、研究者に素晴らしい成果をもたらしてくれると確信している。末長く良い関係が続くよう相互理解を深めていきたい」と、締結の意義を強調した。

東京農大6学部23学科の幅広い研究の中には、医療の臨床応用につながる研究内容も多く、学校法人東京農業大学が運営する東京情報大は昨年度、看護学部を新設しており、医療系総合大学の昭和大との幅広い分野での連携が期待されている。



協定書を取り交わす小口理事長（右）と大澤理事長



## 農大稲花小にレモンの木

サッポロHDが寄贈

来春開校の東京農業大学稲花とうか小学校に、サッポロホールディングス（以下、サッポロHD）からレモンの木が贈られ、このほど贈呈式が行われた。

ビールメーカーのサッポロビール社や「ポッカレモン」等を製造販売するポッカサッポロフード&ビバレッジ社などを傘下を持つ純粋持株会社であるサッポロHDは2017年7月、東京農大と包括連携協定を締結している。この協定締結を記念し、また新たな小学校設立のお祝いとして、グループを象徴する果実のレモンの木を贈ることになった。

7月24日にあった贈呈式で、サッポロHDの野瀬裕之・取締役戦略企画部長は「農大稲花小が掲げる教育理念『冒険心の育成』は、企業経営にも必要な考え。有為の人材をたくさん育ててほしい。このレモンの木を可愛がっていただき、多くの果実が実る大木となるまで、末長いお付き合いをお願いしたい」とあいさつ。これに応え東京農大の高野克己学長は「『学んで実る』が東京農大の掲げる実学教育の理念。レモンの木は新しい小学校にふさわしいプレゼントです」と謝辞を述べた。この後、校長就任予定の夏秋啓子・東京農大副学長が学校の概要を説明し、参加者は夏秋副学長の案内で真新しい校舎を見学した。

レモンの木が植樹されたのは、体育館棟北側でメイングラウンドとサブグラウンドを結ぶ通路沿い。野瀬戦略企画部長と高野学長の2人によって記念の銘板が据え付けられた。



レモンの木に銘板を立てる野瀬戦略企画部長（右）と高野学長

# 農大試飲フェア 「楽しい！」と大盛況に



## 農大卒業生の試飲会 「食と農」の博物館で初開催

多くの来場者が、様々な酒と会話を楽しみながら、会場を賑わせていた。

東京農業大学卒業生の蔵元が造った日本酒を集めた試飲会「農大蔵元試飲フェア」が、東京農大「食と農」の博物館で開かれた。初めての開催にもかかわらず、多くの日本酒ファンが訪れ、入場待ちの長蛇の列が途切れず、約2500人が訪れる盛況となった。

東京農大は1950年に醸造学科を設置（現・応用生物科学部醸造科学科）しており、多くの人材を酒造業界に輩出してきた。「食と農」の博物館では、卒業生が蔵元となっている銘柄の酒瓶280種を展示しているが、来館者から「展示だけでなく、ぜひ飲んでみたい」との要望が絶えず、試飲会を初開催することになった。

6月17日の試飲会には、全国各地の蔵元11社と1農家から52種のお酒が出品された。午後1時の開始予定だったが、30分前に約50人が行列を作り、その数は増え続けたため、10分早めて開会。大半の日本酒は300ml、1000円か2000円だったが、2万円と高額な42年貯蔵の古酒もあり、来館者は思い思いの蔵元のカウンターで足を止め、さまざまなこだわりの日本酒を楽しんでいた。

夫妻で訪れた東京都世田谷区の河合謙一郎さん（48）、順子さん（48）は、「フェイスブックの投稿で開催を知っ



会場の外で入場を待つ来場者。一時700名近くの来場者が並んだ。

た。全国各地の知っている銘柄もあれば、知らない銘柄もある。それぞれ蔵元の個性が感じられてとても楽しい」と喜んでいった。また、新聞記事で開催を知った友人から誘われて来たという浦和市の吉沢正博さん（60）は「日本酒が好きなので来ました。いろいろなお酒を楽しませてもらいました。さすが農大ですね」と笑顔で語っていた。

来館者が多く、提供する日本酒の量が足りなくなることが明らかになったため、午後4時の受付終了予定を2時半に早めて対応した。同博物館は「想定をはるかに上回る来館者で、すべての人に試飲していただくことができない事態となってしまい、申し訳ありませんでした。次回以降の開催にこの経験を生かしたい」と語っていた。

## 私の宝もの

My Treasure

### 第4回

# 世界で唯一 きのご観音

東京農業大学 教授・「食と農」の博物館 館長 江口文陽

えぐち・ふみお／群馬県生まれ。東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了。博士（林学）。東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科教授。専門は林産化学、きのご学であり、『きのご博士』と言われている。

特に信仰心があついわけではありませんし、真理を探究する科学者にはそぐわないことかもしれません。でも、毎日朝晩、自宅玄関に置いたこの観音さまと向き合うたびに、見守られているという安ど感に包まれます。世界で唯一のきのご観音。運慶、快慶の流れを継ぐ京都の大仏師、松本明慶師<sup>みょうけい</sup>にお願いして制作してもらいました。

なぜ、そんなものを、と思われるかもしれません。きのごの研究を志したきっかけから始まっているのだと思います。高校3年の時、父が胃がんで余命3カ月から半年と告げられました。その手術後に処方されたのがカラタケの菌糸体から作られたクレスチンという抗がん剤です。「きのごなんか本当に効くのか」と思い、科学的な根拠を自分で確かめてみたいと思ったのです。父は坂口安吾らと親交のあった文芸評論家でした。訪ねてきた作家と父との会話を、幼いころから聞いていて、「生きる」とか「いのち」という言葉に敏感だったとも思います。

研究者として実績を重ね、自分なりの達成感を得るようになった時、東日本大震災が発生しました。原発事故に伴う風評被害で、きのご、特にシイタケ栽培農家は深刻な被害を受けます。対策に迫られる2012年、母校に教授として戻ることになり、翌13年から日本きのご学会の会長を務めることも内定しました。

風評被害が収まらない中、今の気持ちを何か形として残せないかと思い、お付き合いのあった松本明慶師に相談すると、「ならば観音さまを彫りましょう」と言ってくれました。

1年待ち、出来上がったのがこのきのご観音です。救いを求める者の心に添って千変万化するという観音さまに、明慶師は私のきのごに対する思いを込めてくれました。14年秋に京都・大原野の工房で初めて対面した時の感動は決して忘れないでしょう。一大学教員にとっては大きな決断でしたが、心の宝になっています。

きのごにはさまざまな効能がありますが、未解明な部分もまだまだたくさん残されています。きのご観音に励まされ、研究に励みます。

(まとめ・東京農業大学客員教授、鈴木敬吾)



◀手にはシイタケを持つ、きのご観音菩薩。高さ40センチ、本体はクスノキ、台座はヒノキ。



### 東京農業大学の沿革

#### 榎本武揚と横井時敬

創設者は、明治の英傑榎本武揚だ。明治政府で通信相、農商務相、文相、外相などの要職を歴任した榎本は、1891（明治24）年、東京に「私立育英塾」を設立した。その農業科が東京農学校、東京高等農学校と名を替えつつ、拡充の歴史を歩み、今日の東京農業大学となる。東京農学校時代の1895（明治28）年、評議員として参画したのが、明治農学の第一人者横井時敬だった。「人物を畑に還す」「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」と唱えて、「実学」による教育の礎を築き、東京農業大学の初代学長を務めた。大学の「生みの親」は榎本、「育ての親」は横井である。

#### 高等教育から初等教育まで

東京農業大学は、農学部、応用生物科学部、生命科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、生物産業学部の6学部23学科からなり、大学院は2研究科20専攻体制が整っている。世田谷、厚木、北海道オホーツク（網走）の3キャンパスに約13,000人が学んでいる。学校法人東京農業大学の傘下には、東京情報大学（千葉）があり、総合情報学部、看護学部の2学部2学科と大学院1研究科に約2,000人が学ぶ。また、併設校として農大一高／中等部（東京）、同二高（群馬）、同三高／附属中学（埼玉）がある。2019年度には、東京農業大学稲花小学校が世田谷に開校する。

2018 | 東京農大創立127年

学校法人東京農業大学

- ◆東京農業大学
- ◆東京情報大学
- ◆東京農業大学第一高等学校
- ◆東京農業大学第二高等学校
- ◆東京農業大学第三高等学校
- ◆東京農業大学第一高等学校中等部
- ◆東京農業大学第三高等学校附属中学校
- ◆東京農業大学稲花小学校（2019年4月開校）